

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成28年度）
 - 研究課題 2 小学校 -

都道府県・指定都市番号	5	都道府県・指定都市名	秋田県
-------------	---	------------	-----

公立・私立・国立（○で囲む）

1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	せんぼくしりつかくのたてしょうがっこう 仙北市立角館小学校						ふりがな 校長氏名	たぐち けいいちろう 田口 桂一郎
所在地	〒014-0378 秋田県仙北市角館町西野川原56-1 電話 0187-55-2188 FAX 0187-55-2189 E-mail kakusho@city.semboku.akita.jp							
(H28.4.1見込)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	(H28.4.1見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 31名
学級数	3	3	3	3	3	3	18	
児童数	70	72	71	91	74	80	470	
特記事項	特別支援学級（3）… 知的（2） 自閉・情緒（1）							

2 研究主題等

教科等名	特別活動	教科課題番号等	2
学校における研究主題	自分のよさを積極的に発揮しながら、協力してよりよい生活を創っていかうとする 子どもの育成 ～思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫～		

3 平成27年度の成果と課題

<p><成果></p> <p>○合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる学級活動（1）の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が意見を記述した学級活動ノートに、教師が助言や励ましを書いて返すことにより、学級会で自信を持って発言できる児童が増えてきている。 事前に板書計画を立て計画委員会で確認することにより、話合いの流れを明確にして学級会ができるようになった。 賛成・反対の意見の理由や話合いのめあてに沿った理由を、短冊の色で区別して表示し、「くらべ合う」に重点をおいた話合いを行うことにより、思考力・判断力が高まってきている。 学級活動の歩みや学級活動ノートに書いた振り返りを教室に掲示することで、次回の学級会の話合いや実践の場面に生かすことができるようになってきている。 <p>○自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる学級活動（2）の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 「見付ける」段階で、ペアやグループ、全体での話合い活動を効果的に取り入れることで、具体的な個人目標を自己決定する力につながっている。 学級担任とともに養護教諭や栄養教諭が、専門性を生かしたティームティーチングを行うことで、児童が解決や対処の仕方を主体的に考えられるようになってきている。 <p><課題></p> <p>○合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる学級活動（1）の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の問題意識を高め、議題を選定するまでの指導を工夫する。 話合いの視点を明確にし、互いの意見を聴き合い、黒板で話合いを整理し(操作しながら分類・整理)、学級全体で考えながら話し合うことができるようにする。 「どのようにするか」に重点をおいて話し合い、それぞれの意見のよさを生かして折り合いを付け、みんなが納得できるようにするなど、合意形成に必要な思考力・判断力を高めていく。

- ・自己指導能力を高めるために、話し合いや実践での「振り返り」では、「何のためにやるのか・やったのか」「自分はどういうことに取り組むのか・それでどうだったのか」等、視点を与えるようにする。
 - ・ペアやグループ等による小集団での話し合いでは、何のために話し合うのかをはっきりさせる。
- 自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる学級活動（２）の指導
- ・指導のねらいを明確にする。
 - ・アンケートや資料の提示などによって問題意識を高め、課題をつかませ、解決方法について多様な視点で考えられるようにするとともに、自分に合った具体的なめあてや実践方法が設定できるようにする。

4 平成28年度の研究計画

(1) 本年度の研究の重点等

- ・思考力・判断力・実践力を育てるための話し合い活動の充実や評価の手立て、係活動の充実、年間指導計画の見直し、系統的な指導等についての研究を深めていく。
- ・委員会活動の見直しや代表委員会の役割の明確化を行い、児童会活動の活性化を図る。

(2) 研究計画

実施時期	研究内容、研究方法、成果の公開等	期待される成果等
前期	<ul style="list-style-type: none"> ○前年度の成果と課題を生かした取組を継続し、学級活動の充実を図る。 ○前年度の委員会活動の振り返りを生かして活動計画を作成させたり、学級会の指導を生かしながら、代表委員会での話し合いの進め方等を指導したりする。 ○特別活動における話し合い活動の取組を各教科等での話し合いに生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の充実により、自分の考えを広げたり深めたりすることによって、学びが深まり、学びへ向かう力が高まる。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ○思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会を開催し、2年間の研究の成果と課題を明確にして検証する。 ○今年度の研修のまとめと来年度の方向性の立案、検討 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の成果と課題を明確にし、次年度の研究の方向を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決力の向上によって主体的な学びが期待される。

5 研究のまとめの見通し

研究のまとめの方向性

- 人間関係力の向上
 - ・自分とみんなを大切にし、共に支え合い向上し合える集団を形成することができる。
 - ・認め合う集団の中で、児童一人一人が自分らしさを発揮できるようになる。
- 自己指導能力の向上
 - ・話し合いを通して、解決のための方策を主体的に考え取り組んでいく力が育っていく。
 - ・自ら問題に気付き、見通しをもって主体的に解決していこうとする態度が身に付いていく。
- 各教科等における学力の向上
 - ・話し合い活動の充実により、学び合いが充実し、考えを広げたり深めたりすることによって、学びが深まり、学びへ向かう力を高めることができる。

本研究の成果を他校等に発信する具体的な方法等

- ・公開研究会を実施し、研究の成果のまとめと普及、今後の課題を明確にする。
- ・校内授業研究会の内容・日程を近隣の学校や大曲仙北特別活動研究会に連絡し、普及と同時に指導を得られるようにする。
- ・ホームページを通じて指導案や実践の内容を随時掲載していく。